

モデルプログラム J-3 在籍学級での学習支援-学習参加を促す工夫-

ねらい	外国人児童生徒等が在籍学級での学習に参加する際の困難を理解し、在籍学級での授業に学習参加を促すための方法論を理解して、授業の工夫をしようとする。
対象	<input type="checkbox"/> 教師を目指す学生(教員養成課程他) <input type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 現職一般教員 <input checked="" type="checkbox"/> 管理職 <input type="checkbox"/> 指導主事 <input type="checkbox"/> 日本語支援員/母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input type="checkbox"/> 1年目 <input type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5年-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input checked="" type="checkbox"/> 捉える力(子どもの実態把握) <input type="checkbox"/> 捉える力(社会的背景の理解) <input checked="" type="checkbox"/> 育む力(日本語・教科の力の育成) <input checked="" type="checkbox"/> 育む力(異文化間能力の涵養) <input checked="" type="checkbox"/> つなぐ力(学校作り) <input type="checkbox"/> つなぐ力(地域作り) <input type="checkbox"/> 変える/変わる力(多文化共生社会の実現) <input type="checkbox"/> 変える/変わる力(教師としての成長)
主な内容	J 在籍学級での学習支援 C 学校の受入れ体制
活動形態	<input checked="" type="checkbox"/> 講義型 <input type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	60 分
流れ(・項目)	活動(◇活動の工夫)
1. 外国人児童生徒の学習状況を捉える(10分) ・言語能力の捉え方(F)	1. 外国人児童生徒がどのように学習をしているかを思い起こす。 1) 在籍する学級で ・「普通」「問題ない」ように見えるが本当にそうか。 ・「お客様」状態になっていることはないのか。 ・周囲の子どもたちはどうかかわっているのか。 2) 取り出しの日本語指導で何を学んでいるか、確認する。
2. 学習参加を促す支援について知る。(20分) ・学習参加のための支援(J)	2. 学習参加を促すための理解や表現の支援の必要性について知り、その方法について理解する。 1) 「発達の最近接領域」について知り、児童生徒の持っている力を発揮して学習参加できるように支えつつ、自力でできるようにする支援(スキュアフォーリング)が重要であることを知る。 2) 外国児童生徒等の学習参加を意識した授業例(学習指導案)から、有効な支援の方法について理解する。 理解支援、表現支援、記憶支援、自律支援、情意支援
3. 言語の意識化の方法について知る。(15分) ・フォーカス・オン・フォーム(J)	3. 教科の授業で、児童生徒に語彙や文の形に意識を向けさせる方について、具体的な例をもとに知る。 ・フォーカス・オン・フォーム ・訂正フィードバック 等
4. 在籍学級での外国人児童生徒への支援を検討する(10分) ・カリキュラム・マネジメント(J)	4. 1で検討した在籍学級の外国人児童生徒に対して行える支援を検討する。 ・カリキュラム・マネジメント ・外国人児童生徒の学び方を考慮した単元計画 ・周囲の子どもとの学び合い ・スキュアフォーリング
5. 教員間の連携の重要性を確認する。 ・教員・支援員間の連携(C)	5. 取り出しの日本語指導を担当する教員や支援員との連携の重要性について話し合う。
備考	15分程度で扱う場合は、3を中心に扱う。

